

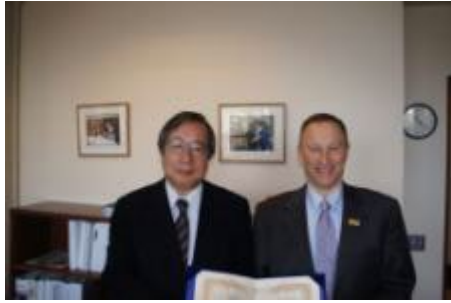


カリフォルニア大学デービス校

University of California, Davis



●学部学生 24,655人 ●大学院生 7,500人 ●教職員 2,527人
 ホームページ <https://cie.ucdavis.edu/>
 交流協定締結年月日：2018年2月14日 主管学部：農学部



UC Davisと香川大学の協定書交換



ロバートモンダヴィ研究所
 ワイン、オリーブ他の研究施設



Robert Mondavi Institute
 for Wine and Food Science の風景

国際交流の特色

1905年にUC Berkeleyに農学専門学校が設立された。1922年、4年制の学位授与カリキュラムが制定された。1959年にUC Riversideとともに、カリフォルニア大学の独立した1キャンパスとなった。UCデービスのCollege of Agricultural & Environmental Sciencesは農学、食品科学分野では北米1位の研究教育環境を保有している。カリフォルニア大学のキャンパスの中では最大の22Km²に及び図書館や研究施設といった通常の大学施設のほか、飛行場や消防署も備わっている。

交流実績（平成31年度～令和3年度）

年度	H31	R2	R3
受入・派遣			
学生の受入	1	0	1
学生の派遣	1	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）		0	1
オンライン交流参加者（相手機関）		0	3



学生食堂



自転車の街Davis



ハウスメイトとクリスマスパーティーを楽しむ様子

教員からの声

はじめてこの大学を訪問したのは、1989年。当時は、市内道路にバイクレーンがあり、車道とバイク、歩行者が分離されていた。太陽発電のモデル住宅地があり、見学者も多く、機能的な町として有名であった。デービス市は8万人ほどの比較的小さな町であるが、市内バスも整備されている。自転車が便利な街で、大学を中心とした静かで安全な大学街となっている。

UC Davisは農学、食品、環境分野では世界をリードする大学の1つであり、ファイナリーで有名なナパバレーに近く、大学でもワイン製造実習が受講できる。最近では、オリーブオイル製造技術の研究開発も地域連携プロジェクトとして組織的に進められている。カリフォルニア州が世界のオリーブ生産地の拠点となる日も近い。毎年数名の学生が短期留学生として、香川大学農学部にて、日本の伝統食品の食品製造、安全管理技術について学びに来ている。

最近では、アメリカ化学会のシンポジウムなどを共催する機会があり、親しい研究者も多くなった。

農学部教授 田村 啓敏

学生からの声

UC Davisには多くの付属研究所があり、私はCenter for Health and the Environmentに所属し、客員研究員として7ヶ月間実験を行いました。メダカの遺伝子、遺伝子産物の同定を通して、分子生物学の実験手技を磨くため留学をしました。日本で行っていた研究とは違う動物を対象に実験を進めていく必要があったので、難しいこともありましたが、ディスカッションを重ねていくことで、成長できたと実感しております。

Davisは学生を中心とした街です。私は学生主体のコミュニティに入り、異文化交流を深めることができたと考えております。日本では経験することのない多種多様な人たちとコミュニケーションを取ることに難しさ、面白さはこれからの財産になると思えました。

研究面、生活面で思うようにいかないこともありましたが、その経験も全て日本に帰ってきて活かされている貴重な体験になっています。特に、新型コロナウイルス(COVID-19)の影響で、やむを得ず帰国をした際には多くの方々の手厚いサポートがあり、無事に帰国することができました。多くの支援があって留学が成り立っていることを忘れずに、この留学のバトンを「次、留学するあなた」に渡したいと思っております。

2019年度留学 大学院農学研究科 小池 裕之